

バスターズ週報

潮騒 40

角栄さん復活なるか

○一昨年金脈問題では、雑誌にあげき立てられたが、あっさり首相の座を退陣してしまひ、推名議定の手盛りで三木武夫が指名され、後継内閣の主班となつた。どうもあまりぼつとしないといふ例のワイロ問題が飛びこんできた。

角さんが危いとは、その道の人なら誰の胸にやびんと来ただろう。三木さんは田中さういだから、ワイロ事件は徹底的に解剖してやろうと思つたか、どうか、たしかかなことは判らぬが、やろうと思つたやれる位置にある。推名老が田中危険いと懸念したのが三木引き下ろし工作のはしまりというのが評論家の説である。

即ち三木引下ろしは「ロッキード隠し」につながらず、○指揮権発動をなし得る者を首相にして、故大憲法相がやつたような大たんびらを一閃ひらめかせば、堅いビーナツも灰色のビーナツも一瞬の間に消えてなくなつてしまふ。三木ではそれができない、否やろ気がないのだ。それなら早いこと三木を退陣させて、指揮権発動する胆力のある男に代わるべきだ。

……と、推名のちいさんは考えたのだが、推名の政治力では「新現一軌だ」「自民の結集だ」と騒いで見た処で「指揮発動」をカムフラッシュすることができず、三木さんひくともしない。

福田、大平、など受け皿級を推名老は引っぱり出したが、二人とも現内閣だから閣内から例閣連動を起すのはちよつとてれくさいだろうし、推名老一人でやきもきし、自民党内のあちこちに火をつけてきわつたようだ。

三木をあきたらぬ連中も多いことだろう。このほか、騒ぎはだんだん大きくなるばかり、この三木派は三木のロッキード暴露には怒り、自民に別してゐるから、たれが仲介となつて話をまとめようとしても応ずるものか、三木を引きおろせ、と叫ぶづけてゐる。

自民党あけての大混乱の中で三木はだんぜん強張つてゐる。「おれの手で臨時議会を招集するのだ。このこりの重要法案を成立したあと、おれの手で解散」を宣告するのだ。と頑張つてゐる。
三木に解散宣告などさせてたまるかと、反三木派は太鼓鳴物入りでさわいでゐるのか昨今の情態だ。

第1533号
昭和五十一年
九月二十七日
月曜日発行
Diretor
Koiti Mori
Redator
Shoho
Miyatake
Rua 10 de
Novembro 662
C.Post. 112
Fone. 540
BASTOS
E.S.P.
Annual
Cr# 85.00
Adiant.
前金

WAKAMOTO UAKA

毒のミミ酒

DESINTOXCANTE
ENZIMAS+COMPLEXO B+MINERAIS

わかクリム
美しいお肌の生れるひみつ！説明入り
昼…乳液、ウニベルサル
夜…コールド、クリーム

FLORA BASTOS
T. MORIMOTO & FILHOS LTDA.
Rua Duque de Caxias 524-7. C.Post. 174. Fone 29

生活安定に備えて果樹園の造成を
果樹園成功の秘訣は良種の苗木を撰ぶこと
苗木のことなら農林省公認の
フタババスターズ森元苗木本舗へ
御相談下さいませ

只今シンチを巡廻中、よろしくお願ひ致します
蘭の新種珍種は全伯知名の蘭園と特約して自下
安福提供中、果樹苗の外園芸に關する苗木
類一切、花小・庭園樹・生垣用・植林用鉢植
用・盆費用・ボケ・シンチ・モリヤシ・モリヤシ等々

森元苗木本舗
電話 二一九番

といえは、これをやらせなさいのために反三木派は、ど
のような策術をとるだろうか。合法的な術策という
ものは、も何も残っていない。「三木総理には自民党
を統一する統合性に欠けてゐる」「野党に迎合しす
ざる」となつてみたところで、首相引き下ろしの
看板としては薄弱だし、さうかといふ三木内閣が
、とんでもない失敗をしてゐるわけでもない。三木
は、もう少しばかりゆるかと思つてゐたう、案外つ
まらなかつた、というだけでは私算の計にはならな
い。
推名老が旧型の政治家であるならば、福田、大平

などの關係有刃者に對して、角栄の身があぶない。これは一つ指導権発動をなすべきじゃないか。三木では非刃でそれは出来ぬから、首相を替へねばならぬと相談し、充分の姿勢を構えて打ち出すべきであった。

推名自身が勝手にしゃべつて、あとは成行きにまかせたような、実にあつちのわらひことをしたのである。自分が火をつけては、かくれてしまふい何度もその手をくりかえすのである。旧政治家の最も下品な存在であろう。

かといつては三木さん、よう頑張つたと賞めたい。あつち起らぬような政治劇である。

○ところで悪玉のように云われている推名老にも、いいところがある。角さんに向つて「ロッキード事件の責任をとつて代議士を引退すべきである」と言つたというのである。

角さんはそんな忠告ぐらゐで引退するであろうか。二億円の保釈金をつんで自宅に帰つて来たが、第一に発令したのは、田中派への三木切込みハツパだ。さうでさうさかの時は「指揮権発動」で助けられるものとの期待が外れた怒りは相当なものであろう。先ずこれで角さんの政治生命も了りであろう。鹿の金庫事件でも反響はひどかつたが、こんどのロッキード追撃はショックだった。推名老の忠告がなくとも、角さん自ら進んで政界引退の意を表明した。情惠の声は、或は同情の声とかわろかも知れぬが、角さんのような大親分になると、身内の鹿党が多すぎるので、自分勝手に身を引くというわけにもいかぬものである。

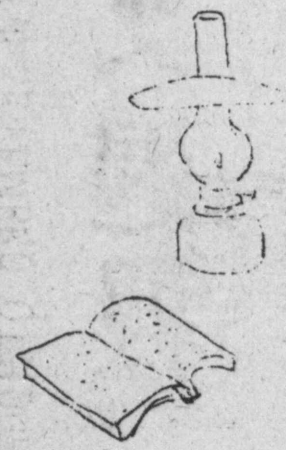
かの田中派の大番頭といわれる橋本富三郎氏も、ワイロ事件で告発されているが、郷里の人達後援会には、こんどの総選挙には、見事当選して見せると願張っているさうだから、田中派だとて(越山会)共々このまゝ角さんを見殺しにすることはあるまい。引責し、消滅するよりも再送して国家のため献身するといふ解釈も成り立つ訳だ。

起訴されたからといって立候補できないわけでもなく、保釈中政治運動ができぬわけでもなく、妻は本人の廻り、心臓の問題である。

○吾々は無料の立ち見席から、母國の政治劇を見ている野次馬のようなものだから、勝手な熱が収めるわけだが、角栄のよう打不滅な男を沐浴してしまわず、も一度松舞台に立たせたり、どのような芝居振りを見せるか、又自民党が在外敗北して、保革変転の中では、どんな働きをするか、多分に興味ある問題ではないかと思う。

一際笠の失脚なら、何も云うことはないが、世界の大物としては、彼はど民衆に受埋された人物は少いであらう。彼が今後どのように生き抜いて行くかと興味をもっている人も多いかと思う。

糸音



病院をお知らせ

皆さんの要望に答えて

眼科専門医の



先生をお迎えして眼科を開設して居ります。診療日は

十月は八日・二十二日の金曜日
十一月は五日、各午後一時から

海野勲先生

治療の外か、眼鏡の度を調べ、
又眼科の手術もいたします

AVISO de HOSPITAL de BASTOS

バストス病院

ブラジル時報社時代

故 輪湖俊午 郎氏

松村総領事は酒豪で酔うと郷士の「ヨサコイ」節を歌つたり、穴八などとも仲々上手であった。子供がなかつた為か、夫人も若い者を集めて御馳走をするのが好きで、愛相はよく、従つて彼らのような放浪者には全く秘漢に於けるオアシスの如き感謝があつたのである。今思いがけなくもマト・グロソ州の大平原で此の総領事に会うことが出来、その上彼の為めに移民事業に必要なる一部の役割を仰せつた。厚意を知遇に對し、衷心、て感激の外がなかつたのである。

彼は、カンボ、グランデの新聞職工を誘つて暫く遊ぶ事とし、当時偶々彼と前後してマト、グロソ州へ落ち延びて居るサンパウロの知人が二人あつたが、これらの二人も別にダイヤモンドを掘りに来た訳でなく、若い者の誰れでもが持つ幾分の放浪性と好奇心が此處へ走らしたものであつた。一人は南米週報に居た鹿野で、彼はその後鹿野と大喧嘩をして社を出たのであつた。

鹿野は取島嶼の生れで、外語のイタリヤ科を卒業、妻子を國に残して漂然渡伯し、耕地通訳などしたり、ブラジル人に柔道の師範をしたりして遊んでいたが、放浪性たつぷりの男であつた。鹿野はカンボ、グランデから更に汽車で七時間も興のミランダと云う戸数百戸に足らぬ古い田舎町で本拠をゆつてた。

もう一人は三時間ばかり先のアキダワナという町の郊外で、養鶏をやっていた翁長と称する男であった。鹿野も翁長も年輩は彼と大差なく、いすれも通った放浪者であった。

翁長は沖繩の士族で殿様の青英生として東京に遊学し、後高等商船の機関科を出たが性不詩人風の男で、短歌などよくし、一席の文筆家だけに、油の香か煙でたまらず、遂に船乗りを断念して秘露へや、て来た、それからアンデスの高原を越えアマゾンへ下り、サンパウロ州へ来たのであった。彼と時を同じうして其頃翁長はアキダワナにあり朋輩の支援で、細々と養鶏をやっていた。

翁長は髯深い男で、一カ月も放つて置くと髯の中に顔が覗いていると思われる珍妙な風体になる。しかも体軀は五尺を出ずる僅ばかりの小男故、びくつきに見えた。草薙ぎの堀立小屋に寝起して、僅かばかりの鶏を相手に歌を作り読書をしていたが、或日翁長を訪れると、「どうも鶏があつとも増えぬので、近所のカボク口から買ひ集めていたのだがね、それがおかしいんだよ。同じ奴がいつも同じような鶏を持つて売りに来るので、一度鶏を呼び集めて勘定してみたら殖えない訳さ、あの野郎共僕の鶏を盗んで行つては又持つて来るのが解つたんだ。これではとても商売にならんぞ止むようと思つて居る。僕は歌さえ詠んで居りゃ、鶏はひとりで殖えて行くと考えていたが駄目だよ」

という香気な話だった。翁長に養鶏はむかんと云うので、今度は朋輩が魚獲りを勧めた。アキダワナの町附近に幅員五、六米の河がある。此の河は岩石ばかりで急流をなし、瀬にせ、うき洲に黙し、水は清く澄んで、魚の姿は手に取る如く鮮かである。翁長は最初釣をやつたのだが、此の辺にはピラニアと云う魚が居て、針金でも釣糸でもみな食い切つてしまふ。その体二、三尺程度のものだが、鯛のような形をしており、鋭い歯が上下に二組宛、それも御丁寧に二重になつて居るから都合八枚あるわけである。釣り上げた場合など知らずと抑えようものなら、指を食い加られ、或は害の肉をえぐられること請合である。

勿論どうした危険狩猟な魚ばかりではないが、翁長はもともと魚釣りを家業とした経験はなく、それに歌ばかり考へる癖があつて、兎角不成績たらざるを得ない。そこで、今度は釣をやめてダイナマイトをかけることにした。前が驚くべし、そのダイナマイトをパクリと呑みこむ大きな魚が居て、これまた商売にならなんだ。

アキダワナに就いては尚お外に語るべき思い出がある。此の町は二百戸足らずの古い町で、郊外に四五の日本人野菜屋が居た。その中の一人の言うのに、「私は毎夜火の玉が私の土地から出る夢を見る。きつとダイヤがあるに相違ない」

と半信半疑の話をした。事実この地帯にはダイヤモンドが出たらしく、地中からは時々土人の使用した採取用具が発掘された。そればかりか古くはない話に、此の町へ或る時土人の酋長が出て来たが、その首飾りに大きなダイヤも持つて来たというので、丁度此辺へ鉱石の探検にやつて来て居た悪いアメリカ人が、酒に酔わせて奪つてから、逃げ去つてしま

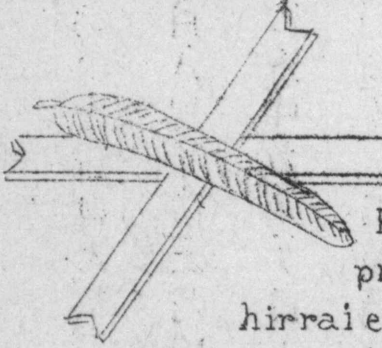
つたところである。さういう訳で、この火の玉の夢を見る野菜屋は宝の山に入り、そこに任んで居るのだが、いすれかの日素晴らしいダイヤが彼に転びこむものと思つて居たらしい。

もう一人の野菜屋に増田と言う青年がいた。この男は非常に勇敢で、二、三日前畑を働いていたが、突然豹が現われた。その時の拍子でもあつたらう、増田の眼と豹の目がピタリと会い、双方釘づけの状態となつた。そこで増田は思い切り走り返していろと、豹はそのまゝ二、三歩後へさがり、くるりと体をかわして逃げた。増田は鉄を振り上げ刃ど無意識に豹の豹を刺した。増田は豹の林の中の大きな岩へかけあがり、今度此の岩に豹は向きなり、増田を一口噛みと其の岩上から飛び降りた。其の瞬間岩壁にひたりと身を寄せた増田は向き返つて、鉄を豹の背の中目かけて打ち下ろした。続いて狂える豹を乱打して遂に段り殺してしまつた。

「この皮がそれですよ」と増田は家庭に乾してあつた頭尾八尺もあろう豹の皮を見せるのであつた。もう一人の野菜屋に名物翁さんがあつた。「おかげめのような顔をして居るので斯く棒名されて居たか

金一封 御礼
右は貴方の御祝儀の節多少お返し致しました近前記の御奇蹟もました。厚く御礼申上げます
樽岡様
ウニオンII 婦人会

Organização Social de Luto A Regional



Faça Bastos crescer prestigiando seu comercio
Sobre direção de Aparecido Feliciano Ribeiro, Ex-Funionario da Funeraria São Pedro, Artigos funerarios, prestação de serviço Flores, coroas, velas, hossenko, hirraie artigos para UMBANDA em geral.....Atnde-se dia e noite, (Rua Adhemar de Barros, no 395 Fone 361 Bastos

Residência no local. 葬具店. フネラリア. サンペドロ

後藤さんのガソリン ポストの向いで 葬具店 を開業しております
本店では、ローソク、練香、花輪、花、等仏式に必要なもの全部あります
高級棺の月賦の御相談にも応じております。日夜受付しております
からお電話で御注文下さいましたら早速にお届けいたします
ルア. アデマル デ バーロス街 2.95, 電話 361.
バスト ス 市

近所のブラジル人もこれを真似して「おかめ、おかめ」と呼んでいた。この爺は嘗て大阪角力に於て大闘を強った大健で、當時の人氣力士であつたが、或時角力の相手を投げ殺したことから問題が紛糾し、恰も日英博覧会の隙であつたを幸い、世話人はこの大健を興行師の一人に加えて英国へ送つたのであつた。英国から更に独逸へ渡り、カイゼルの御前で角力を取つて見せた「おかめ」は得々と話したが、その後舞臺へ来て興行に失敗し、遂にマト、グロソ州へ流れ込んだのである。年輩は其の頃六十前後であつたが、まだまだ大した力で、よく外人の大きな奴を投げつけた。非常な愛嬌者で、好きな酒を酌る處でこ馳走になつていた。「日本へ歸る氣はないかと聞かれても、彼は只淋しい微笑を浅うすのみであつた。

此のアキタワナ川の上流にはダイヤモンドの産地があつた。然しまだ世に知られて居る程の處ではなかつたが、一日二、三の朋輩と共に案内者を連れてそこへ遊んだ。

川は山脈を巡つて激流をなし、この岩山続きにダイヤモンドを包含する磁脈であり、永い間の風化作用により、この川へ流れ出で、浅瀬の小石や砂礫の中に混つてゐるのである。ここに近年ミナ州から取つて来たというダイヤモンド掘りのお爺さんが、たった一人居た。お爺さんは砂糖とメリケン粉をおみやげにすれば喜ぶと聞いたので、これを若干携帯して行つた。

川の向う側に住んでいたので、「オーイ、オーイ」と呼ぶと、やがて爺さんが丸木舟を巧みに操つてやつて来た。爺さんは此處へ来て二年程になるさうで壁なしの小屋の廻りには少しばかりのマンヂオカを植えてあつた。小屋の柱にはハンモックが一枚吊つてあり、その傍に火を焚いて栗籠をかけてあつた。爺さんは六十を遙かに越して居り、体は到つて少さく、カバニマキの先きを玉蜀黍の皮を割いて結び、破れた下シャツに粗末なズボンと云うブラジル仙人の生活であつた。

爺さんは土産の砂糖とメリケン粉を非常に喜んだ。「爺さん、こんな所に一人住んで居て淋しくないかい」「淋しいことはないよ。夜は絶えず色々な獣が壁なしの小屋だから、ハンモックの傍まで来るし、昼は川の砂利を上げたり、岩を割つてダイヤモンドを探すのに氣をとられ、少しの退屈はない。」「お爺さん、大きなダイヤモンドを拾わんかな」「拾わんこともないが、さう矢鱈はないよ。小さいのなら、幾らでもあるがな」と、柱にかけてある牛の角を取り、手の平に山の如くあけて見せた。白色が大部分で、中には青味の帯びたものや、稀には黄色のダイヤモンドもあつたが、みな小豆粒位のものであつた。大きいのは、恐らく何処か隠してあることだらう。お爺さんは若い時から永い間の一代をダイヤモンド掘りで暮し、こつた山中に人間とも仙人ともつかぬ生活を続けて来たのだ。お金が欲しいからダイヤモンドを掘るのではない、豊富な寶石だというダイヤモンドを採り、これが人間の最も高価な宝石で、而もそれは皆俺の懐中に秘め置かれてあるのだと考えると、お爺さんは堪らなく愉快であつたのだ。もしお爺さんに生活のためお金が必要であり、或は残生を只不自由なく送らうとの安価な願なら、この牛の角に一杯あるダイヤモンドだけでも充

死亡通知並に会葬御礼

三男、山口貞夫(三十八歳)儀、去る九月八日午後三時頃聖市よりバストスへの途中カステロ、ブランコ街道への入口近くにて輪禍のため負傷、直ちに入院加療に八方手を尽しましたが、翌九日死亡致しました。

依つて翌十日午後一時半自宅にて葬儀万端執り済せ、聖の墓地へ埋葬致しました。此儀生前御厚誼を頂きました皆様に謹告致します。

尚葬儀に際しましては聖市の知友各位多数の御会葬下され、御香花をかたじけのうし、裡心より御礼申上げます。又、バストスの知友からも御鄭重なる御香料をお供え下され、誠にありがとうございました。く重ねて御礼申上げます。

実は聖市でも御廻礼も致しませぬ帰郷致しました御不礼を老に免じ御中るしをいただき、略儀紙上を以つて謹んで御礼申し上げます。

一九七六年九月二十日

山口 金丸
 つる
 兄弟 一同
 親戚 一同

知友各位 様

分であろう。最早このお爺さんは自然を離れて生活のできない程、山の川に身も魂も溶け込んでいくかに見えた。彼等の一行は爺さんかう四、五粒宛の夕イマを貰うて帰ったのである。

大正六年の六月移民船が着伯すると間もなく総領事館から至急に上市せよとの書面が来た。天機洩らすべからざることの愈々実現かと考えられたが、同時に一種不安な予感も伴った。と云うのは書の文意が余り簡明ばかりか、彼を喜ばすべき一字一句も見当らなかつたからである。

官邸を招いた松村総領事は「君に話した通り、僕はそのつもりで計画を進めていたのだ。所が先週入港した移民船で、会社が機関紙を出すということまで、沢山な活字や印刷機等一式と職工まで連れて黒石がやって来たのだよ。此の事は支店長の田口も全く寝身に水だったさうだよ。それで僕は総領事として移民会社が新聞を持つことは怪しからんと言ったが、田口は若し総領事の故障で出せぬとあつては私が困る故、編集は一切総領事の監督下に置くから御諒承願いたいと言ふのだ。そこで僕は黒石にブラッセルのことは解る筈がないから、編集に君を入れることを条件としたのだ。田口も君をよく知つて居り、又非常に厚意を持っていたので、却つて喜んで様打認だ」と移民協会設立の家が石の事情に煩わされ、中止したとの事であつた。

さて「ブラッセル時報」発生の経緯を物語るると大略次のようである。

東洋移民の支配人神谷某は前年日本で、東洋、森岡及竹村の後を継承した南米移民の三者を以つてブラッセル移民組合を組織せしめ、移民再興の爲め其の代表として大正五年に着伯した。佛々歐州戦乱に於て彼地より移民を求めること困難となり、遂にサンパウロ州の農園は極力資金不足を告げて居た。恰もアンツィネスと称する会社が、年一万人の国籍を問わざる外国移民を入国せしめ得る州と契約があつたのを幸い、神谷はこれと折衝し、年五千宛向う四カ年計二万人の日本移民を入伯せしめる契約に成功した。これを知つて「週刊南米」の星名及び「日伯新聞」の金子と彼が、或日神谷を訪問し、会社の移民契約成功祝として若干の活字を両社へ寄贈するよう談判したところ、神谷は、「よからう、然し二新聞は不必要だから君らは合同したらどうかね。そうしたら活字は貰つてあげよう」と、頭から威張り散らした挨拶であつた。

神谷は恐らく其の頃また四十代に手が届かなんたであろう。丸々と肥つて血色がよく、丁度絵に描いた桃太郎のような顔をしていた。アメリカ刀付込だから英語は勿論上手あり、その上如何にもビジネス、マン、ライクのキビキビした所が上役の氣に入られたのであろう。東洋移民へ入つてから、トントソ柏子で出世をしていった。然し人間と言う点から見ると、星名などの足下へも寄ればせぬのだ。どうかした風の吹き廻りして若干の天分が時流に踊り出たに過ぎぬのだと思われた。こうした人物の滞として、金もなく、地位もない人間は馬鹿に見えて困るのであろう。

少しは思想的な何物かがあるだろうと星名も金子

も又彼も活字以外に期待した初対面であつたのに、やはり一介の移民屋に過ぎないのであつた。二新聞の合同は勿論性格的に不可能であるし、又、こんな男を相手にしても不愉快だつたので二人は勝手な議論を吐いて置いて失礼した。

神谷はこの会見で聊か癪に障つたばかりでなく、この二新聞は移民会社の邪魔になると考え、今の内に叩きつぶさうと決心してブラッセルを出発し、北米經由で急遽帰国したのであつた。

前記のような経緯によつて出発した「ブラッセル報」へ、今彼が入社するとは何たる又皮肉であろう。社長黒石とは性格的にも永遠不可能と思つたが、総領事及田口支店長に対する恩義もあり、又、勝手の手の解つて居る新聞屋のこと故、此の機会に少し

第61回バストス・ゴルフ月例会 1976年9月12日

順位	代名	7H	1N	グロス	ハジ	ネット
1	永吉 久雄	44	45	89	23	66
2	永吉 次郎	44	45	87	19	68
3	永吉 見代	41	46	87	16	71
4	永吉 天代	42	40	82	10	72
5	永吉 浦守	42	42	84	12	72
6	永吉 浦守	47	47	94	22	72
7	永吉 山秀	49	51	100	28	72
8	永吉 上源	50	52	108	35	73
9	永吉 鶴ル	44	47	91	18	73
10	永吉 高勝	44	49	93	20	73
11	永吉 内敏	46	51	97	24	73
12	永吉 照升	49	48	97	23	74
13	永吉 浅川	54	54	108	34	74
14	永吉 廣登	51	52	103	29	74
15	永吉 声浦	47	50	97	23	74

グロス賞 82
乗美 代子

バストス日伯文化協会卒月の行事

並に総合会館使用日程表

- 十月二日 バイレ カイピエラ サロン
- 三日 小学校給食担当 柴田夫人 サロン
- 四日 文協理事 会 会議室
- 九日 州立中学校八年生 サロン
- 十日 学芸会白語普及会全バ連合会 サロン
- 十一日 中央区役員会 会議室
- 十六日 堂前家 披露宴 サロン
- 十七日 明老会 のど自慢 サロン
- 十八日 少年野部 例会 サロン
- 二十四日 ショーラザロ テオリベラ サロン
- 三十日 サンジョセ中学校四年生 バイレ サロン
- 三十一日 全 全 サロン

バストス日伯文化協会

広報部

生長の家十月の行事

ても正しい主張をして日本移民の秩序と発達に尽したいと決心したのである。

サンパウロ市の日本人も次第に増加し、コンデ街には既に上地旅館が出来、瀬木、中矢等の輸入雑貨店を初め、雑多な職業を相当賑やかに成っていた。「日伯新聞」には鈴木に代ってマト、グロソから鹿野が来て執筆していたし、星名は「週刊南米」を以て自己の植民地建設に利用して居た。賢明な星名は前年からソコカバナ線の奥に数千町歩の土地を契約し、此地に植民地を開く事とし「週刊南米」は特撰を見て慶刊の方針であったのである。

大正三年迄に入伯した一万五千の邦人も此の頃になると大部状態が変つて来た。モナアナ線へ入耕した一部はリオ、グランデの沿岸に集り、盛に米作をやっていたし、パウリスタ線に於る一部はアララクワラ線ピンドラマ終点リオ、フレト辺で土地を買い独立農となる者も多少あった。ノロエステ線の平野植民地は依然窮状にあつたが、リンス・ピリグ牛は英人の経営に屈し、会社の日本人部に密着するという青年がいて、親切に斡旋したから、既に百数十家も入植していた。この植民地もマリアマで相当犠牲を出したが、何分平野植民地と違い大会社の経営であつたから、悪評も多く外へ洩れなかつた。それに支配人の英人ジェームスは植民地創設者に相応しい人間味豊かな一面があり、日本人の病氣は栄養不足からたど心配し、よく乳の出る山羊を病人のある家へ寄贈してやつた。

死者に送るジェームスの願には人間の胸底へ喰入る悲しみが溢れ、一種の神々しささえ感ぜられた。青柳の心血をそぞげるイグアベ植民地は本年から本格的に入植出来るようになり、サントスからの汽車も既に終点ジュキアへ布設を完了していた。ソコカバナ線にはモンソンの外に星名植民地が、鉄道の終点インヂアア駅より九十キロ奥へ建設されつつあつた。

星名は勿論当時工事中であつた同線が自分の土地を通過することを知つていたので、こんな山奥へ開いたのではあるが、それにしても最初入植した家族の不便苦痛は想像外であつた。

子供が病氣のために薬もなければ、金も無く、粥に炊く米さえなくなつた。父は何とかして子供を助けたいと、九十キロの道を徒歩でインヂアア駅へと急ぎ、その外人薬店に事情を話して賤値した所、親切にも薬代は勿論、その上米を贈り金まで貸してくれた。父は感謝に雀躍して、再び九十キロの山道を米を担いで徹夜我家駆けつけてみると、悲しや愛思は既にこと切れて居たという。この時代の植民先駆には凡そ大同小異の悲話が珍らしくはなかつた。

然し当時の日本政府或は移民関係要路の人々に、移民とは如何なるものなるかと言ふことに就いて深い考察があつたやうな、こうした無意義に近い犠牲の犠牲者の大部は私あずに済んだであらう。

金子の「日伯新聞」は次第に移民会社の機関紙、「フラツル時報」に押されるので、何とか挽回しようと思ひ、翌大正七年活字購入及び資金調達のため金子は帰国することになった。

金子出発の後、彼は何等か日本移民の将来に対し透徹した考えをまとめたので、同年早々に

十月 三日 白鳩会 午後一時

五日 第一夜見真会 バストス 午後七時

十日 誌友会例会 正午十二時

十五日 金巴連合会 壮年部集會 ツツパン

講演会 川口(よし)先生(マセウ)

十七日 合同役員会 午後七時

二十日 水栄える会 午後八時

二十四日 伝導者勉強会及協議会 ツツパン

二十五日 月夜の誌友会 午前九時

二十七日 誌友会 午後七時半

生長の家おしらせ

一九七七年度月刊誌誌価値改正と
申込み付いて

誌友会報 七〇〇×十ヶ月 八四・〇〇
月払 一部 八・〇〇

○ 支払い方法。一カ年分一回払と、半カ
年分づつ二回払いとがあります。但し
二回払の場合は七月号以降は値上りと
なります。

○ 申込みと支払いについて
各隣保班で纏めて本年十月末日迄に申
込みと同時に有吉様へお支払い下さい。

九月二十七日夜の誌友会指導には、
○ 藤 武 先生 が来られますの
で、一人でも多く御参加下さい。

誌友会

御 礼

金 一封
右は黄下の御給札に附し記念に当会に御寄付下さいま
した。厚く御礼申上げます

ウニオン区 男女青年会
橋岡パウロ様

モナアナ線及びノロエステ線の視察旅行に出かけた
のであった。二カ月余を費して帰つて来ての結論と
も思われたものは、概略次の三点であつた。

一、移民の永住性、出移を目的として出て来た
移民であり、国家、又判然たる考えもなく送り出し
たに過ぎぬ此の移民は、皮肉にも家族移民であり、
しかも元氣旺盛な中年夫婦を主体とする者故に出生率
高く、年々家族の人員は増加して、草葉上帰国が困
難に成っている。そこで両親は益々金儲けに焦燥し
て失敗を繰り返す間に、此の国に生れた子供はどん

なことに關係なくドンドン成人して行く。即ち家族移民は宿命的に本國へ歸る事は不可能に迫るものであり、又その國に落付いてこそ初めて意義をなすものである。要は如何にせば日本政府当局や移民にその考えを徹せしめ得るかである。

○二、移民の子弟教育、奴隷を開放して僅々三十年にもならぬ其の頃のブラジルである。サンパウロ州内の大耕地すら兒童教育に對する方途は殆んどなかつたと言つてよい。大切な日本語教育の如きも亦移民の定住性なき点及び父兄の経済的関係から全く望み得ぬことでもあった。それ故兒童教育を中心として考えるとき、邦人移民の救國的植民と云う事は絶対に必要と主張せざるを得なかつたのである。

○三、数は勢なり、文盲な南歐移民を以ての力によつて現にサンパウロ州に如何ともすることの出来ぬ地盤を築いてゐる。時には堂よりも質を以つて口ねばならぬ事もあるが、勢くとも今日の日本移民のサンパウロ州に於ける立場は明らかに数であり量である。故に此の機にブラジル宣伝を徹底して、渡航を感んにする必要がある。

移民は貿易の先駆なりなどと、人を馬鹿にしたことを平気で口にする人もあつたが、移民はそれ自体に於て大きな力と意味とを民族的に持つてゐるのだ。どんな人を入れたら勿論時には問題も起きようが、少々問題が起きれば國策は定まらぬし、國民の眼も覚めぬというのが彼の烈々たる結論であつた。

右の旅の結果、彼はブラジル宣伝の爲め歸國と決し、時の移民組合特野支店長に相談した所「非常に良い考だと思つが、ブラジルから移民募集に乗り出すと云う事は今日まで例がない。従つて独断で君の旅費を出す」とは出来ぬ。この五月船「はわい」で救助歸國の移民が十数名あるから、其の世話を以て行くと言つた名目で三等船賃を出すことにしよう」との返事であつた。旅費などは、もともと彼には問題でない。会社がいかめと云うなら、借金してでも行く決心であつた。

歸國の船 (一)

大正七年五月、彼にとつては十二年振りの最初の歸國である。而かも昨夜はおろか、颯颯一本のいかにも救助移民の監督にふさわしい歸國である。土産一つ買えぬ淋しい歸國であつたが、日本移民の海外発展という疲我慢を帯びての歸國と思へば、又自ら慰めることもできた。

母は彼の幼い時に他界し、父は彼が北米留中此の世を去り、今は長兄が家を継いでいた。若い頃獨り身を海外に行つた彼の頭に印せられて居る故郷は、山々川々親類朋輩の温かい情等、凡そ懐かしきものの外何等世の裏面と云うものはなかつた。サントスの埠頭に横づけられていた布哇丸は一万噸余りの船であつたが、移民を積んでの往航に、印度洋での未曾有の大暴風に遭い、ホートはさらわれ、欄干の鉄棒は船のように曲つていた。低気圧の中に三昼夜も暴弄され、船長はビストルを用意し、小林と云う一等運転士は日本刀を前にして死を覚悟したという話であつたから、余程の大しけであつたに相違ない。料理など勿論できぬので、移民は黒パンとかを渡されてあつたさうだが、自分らの船が今危

険にさらされてゐるとは知らず、「ち」と揺れますなア」「今までとは違いますナア」位な会話で、案外平気であつたさうである。船の人の話に「これが六千噸級のボロ船だ。たら恐らく参つていたでしよう。本船は一万噸もあり、また旧い方ではないから暴風雨の時には気が強いですよ」とのことであつた。幸い布哇丸は難破をのがれ、無事着伯し、リオで一通りの修理を終つて歸航の途につく事となり、サントスで南阿への別荘を積み込んでいた。彼は出帆の前日サントスへ下り、知人合田はもと船員で、機関部の加藤、ナンバンを永く勤めていたが、数年前提移民船で着伯した際、脱走した一人であつた。その頃移民船に乗組んだ船員は、永い航海中に、移民の嫌と嫌意になつたり、或は關係が出来たりした者も稀れではなかつた。又船員仲間の間で、或者は復航の給料まで打ち込んでしまつた彼らの云う「頭なし」の手合もあり、これらの船員は大部分未婚者であつた所から大抵は脱走したものであつた。或る船の如きは、余り多くの脱走者が出た為め、サントスを出帆できず、やむなく島時海員を募集したこともあつた。

合田はナンバンではあり、船長の覚えも目出度かつたから、サントス停泊中は、これら脱走者の見張りをして仰せつけられていた。然るに合田も脱走の腹であつたから、これ幸いと考えていたのである。脱走組を皆逃がしておいてから、最後に合田は、彼らを連れかける風をして、そのまま逃がしてしまつたのである。

以下次号へ

COMAF - MATERIAIS PARA CONSTRUÇÃO
 Rua Pres. Vargas - 840 Bastos E.S.P.
 ANTHERO FERNANDES E FILHOS LTDA.
 Cal, cimento, ferros para construção, tintas, telhas, eternit, manilhas, tubos para esgoto, vitêds, portas, areias, pedras FABRICAÇÃO DE pias, tanques materiais elétricos em geral, ENTREGAS A DOMICILIO

開店おしらせ
建築材料店
 元橋本製糸工場前にて建築材料専門店を開業致しました。木材以外のすべて取扱、之居ます。御注文の品は迅速にお宅までお届け致します。

石灰・セメント・建築金物一切
 塗料・漆・屋根カゴフ・下水用土管・砂・砂利・石板・タイル
 ボルタ(鼻)ガラス・電気用品・水道用品等一切。
 製造部では台所の流台、クランク(水橋)の御注文に於じます。

元橋本製糸の跡、市街地への入口
アントロ・フェルナンデス
インダストリアル商会



これがラッソン・ツットラの
大きな特徴です
高度の経済効率・嚴重なる
品質管理・安定度の高い配合
皆ごんの鶏の健康を守り、より多き利
潤を産み出す飼料として、ラッソン・ツッ
トラ株式会社ではあらゆる技術を駆使
して居ります



RAÇÃO DUTRA

パウリスタ地方代理店
前山商店飼料部

養鶏飼料販売部員

佐藤 豊
木口 常治
藤武 良郎
右の販売部員が参考致しました節は何分にも
よろしくお願い申し上げます

至急に求む

養鶏場で働いて下さる家族を求め
ます。働き手の多い程結構
です。至急に求めます。

住宅に電気及び水道等の設備をして
あります。
通学児のある方も、市街地まで僅か
一キロの距離ですから徒歩で通学で
きます。

御希望の方は直接当方が、週報社ま
で御たすね下さい

セッソン グロリアⅡ区

古賀一敏

FABRICA de GRANITO

Av. Rio Branco 24, Post. 23, Fone: 515
ADAMANTINA E.S.P.

日本式及ブラジル式
墓 碑 記念碑
胸 像 石 燈 籠
石 白 も ち 白
石材彫刻類一切製作
古い墓の修理もいたします
アダマンチーナ市リオブランコ大通り
大西石碑工場
大西文吉 郵函二一三番
電話五一五番

腐敗は政治か国民か？

政治には金がかかる！何故か

前回で述べたように候補者は金がかかるため、集
票活動の外に集金工作にも多大の時間とエネルギー
を費さなければならぬ。その際多額な資金を提供
してくれるパトロンの持てば、候補者の集金労力は
軽減される。しかしそれは金権政治の出現を意味す
る。

共産党や公明党のように、党組織ないし支持組織
が比較的整備されている場合には、個々の候補者
にとって財政的負担は軽減される。しかし党として
老大方る選挙資金を必要とするにはやはりはない
のである。又このようなシステムの下でも、金を使
わないこと自体を売物にして安上りに当選すること
が、場合によっては可能になる。それは多議全国区
のような超マンモス選挙区から、つまり気まぐれの
有権者の投票のみでも数千万票に達しうるような選
挙区から、出馬し、かつ有力なマス・メディアその
の事実を無料で報道してくれる場合である。しかしそ
のような特殊な「清潔」な候補者が有名になり、当
選でさるのは、大多数の候補者が金権的であること
を前提としており、又マス・メディアが無料で紙面
打出し、時間帯を提供してくれていることに依存し
ている。その意味では、これも金権政治の協力者と
いふべきであろう。

金のかかるのは決して減することはない。否むし
ろ、この時点から一層金が必要となる。次期の選に
そなえて地盤かためをしなければならぬ。頻りに地
方の後援会の模範取りに廻わり、親密感を深めてお
かねばならぬが、これには老大方る土産が必要だ
し、各団体からは寄付の申し出る度びに、これに
応じなければならず、金の成る木でもなければ次の
立候補はあきらめるより外はない。
有権者側では、マレ公民館建設とか何とかの寄付
は当然の如くに申し出るし、入学児の世話から、就
職の世話までしてくれるのは政治家の義務のように
考えている。政治の腐敗も社会的腐敗も、つつまろ
ところ金だ。腐敗の原因は金を使う方も、使わす方
も双方にあるようだ。

終り

1976年8月分 バストスの気温と降雨量 株式会社測候部

項目	気温 °C	湿度 %	最高 気温	最低 気温	降雨量 m.m	風向	天候	雲量
1	28.0	20.0	31.0	12.0		N	☉	
2	30.0	22.0	32.0	12.0		N	☉	
3	29.0	19.0	33.0	13.0		N	☉	
4	26.0	19.0	33.0	14.0		N	☉	
5	18.0	17.0	31.0	10.0	6.1	☉	☉	8
6	21.0	18.0	23.0	15.0	15.0	W	☉	5
7	20.0	18.0	23.0	10.0	1.0	E	☉	10
8	25.0	22.0	27.0	17.0		N	☉	2
9	23.0	19.0	31.0	17.0		E	☉	8
10	19.0	18.0	24.0	17.0	2.6	W	☉	8
11	19.0	18.0	20.0	17.0	12.0	E	☉	10
12	21.0	19.0	21.0	17.0	0.2	N	☉	8
13	19.0	18.0	24.0	16.0	0.1	N	☉	9
14	17.0	16.0	19.0	14.0	3.1	W	☉	5
15	16.0	14.0	20.0	4.0		E	☉	
16	18.0	14.0	23.0	5.0		E	☉	
17	24.0	20.0	25.0	17.0		N	☉	3
18	19.0	19.0	29.0	18.0	10.0	W	☉	10
19	19.0	18.0	19.0	15.0	18.0	S	☉	8
20	20.0	18.0	24.0	15.0		N	☉	7
21	17.0	14.0	24.0	8.0		E	☉	2
22	15.0	13.0	32.0	6.0		E	☉	
23	24.0	19.0	25.0	8.0		E	☉	
24	26.0	20.0	30.0	13.0		E	☉	
25	28.0	20.0	30.0	10.0		E	☉	
26	26.0	18.0	30.0	10.0		E	☉	
27	25.0	18.0	29.0	14.0		E	☉	
28	26.0	19.0	30.0	18.0		E	☉	
29	25.0	20.0	30.0	17.0		E	☉	
30	23.0	18.0	28.0	14.0		E	☉	
31	24.0	18.0	27.0	15.0		E	☉	
合計	90.0	56.3	81.95	41.4	11.96			
平均	2.2	1.8	2.6	1.3	3.8			

コロールビズンドブラジル会社製 コロールマツキ印洗濯機

構造が簡単に出来ているので至極堅牢

タンキは「ファイバ」グラス製ですから腐蝕の心配なし
構造が簡単に出来ていますから、故障がほとんどありません
タンキが小型ですから、サボンの消費が少なくて経済的
製造会社はアラサツバ市ですから、万一ベツサの取りかえの場合も
心配はありません。

正価 三回払い 二千五百クルゼーロス (現在直送)

ゼニガメ製ガス風呂

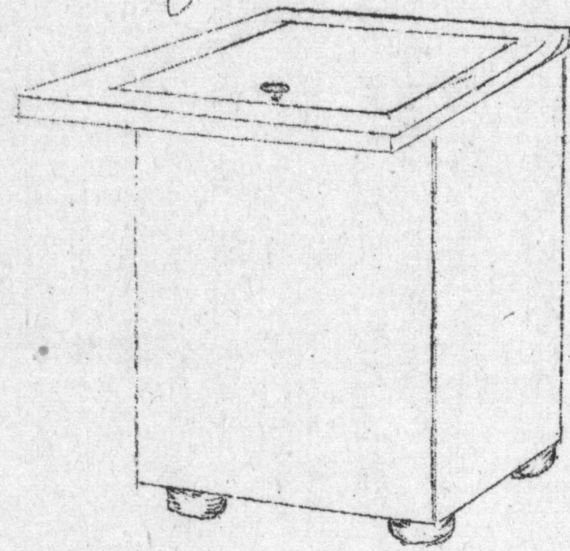
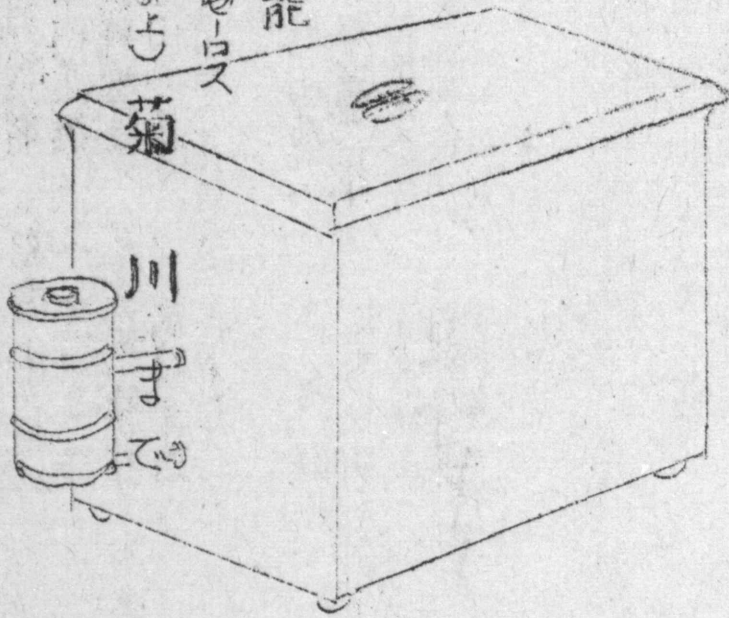
ファイバ グラス製・湯の冷めない、

美しく清潔、腐蝕しないので永久に使用可能

値段 現在 二千五百クルゼーロス現金・三回払い二千四百クルゼーロス
連絡所 バストス市 ア・タカゲ マット へ 信太 フリコリ フィコの上

会社直売人 アラサツバ市

古賀克朝



Deposito de Madeiras PARANA

Kuname Tumaki Ltda.

Rua Tapajos 140 - Fone 2229 TUPA S.P.

Madeiras brutas e aparelhados, portas, vitorós lajotões colonial, formicas, telhas brasilit e francesa, tintas, cimentos, cal, pedras, areias, fechaduras, aglomerados, pregos, dobradiças, compensados, duratex, forro, tacos, venezianas de maderas e metalicas

建築材料専門商会

建築用木材、角物、板、ベニア、戸口枠、ボルト、ガラス窓、ヨロイ窓、木製、金属製、床板、タコ、ホルミカ、屋根瓦、フランセーサ、ブラシリッテ、天井板、セメント、石灰、タタ、砂利、砂、石板、蟻番、錠前、釘、等 建築に必要なもの一切

田巻商会

ツッパン市 ルア タパジョス 140 電話 2229 番

NOSSA RELOJOARIA

Fone: 154.

Takami Shibata Rua Adhemar de Barros 215

高級腕巻ボルソ用・壁掛時計

カラーテレビ

グラブドールステレオ

ボルソ用小型電子計算機

最新型電機マシナ機・蓄音機・ラジオ大小各種
写真機・シネ8ミリ・幻灯機・カメラ・ライタ各種
電気ひげとり機・ユビ・寶石・貴金屬・銀器
メカネ・飾身具・室内裝飾品・拡声・扇風機
タリスマン・磁石・磁石・高級陶磁器類
記念品・おみやげ品・フレシエンテ用品、
常に目新・新しいものを仕入れて皆様
の御来店をお待ちしております。
お買物のついでにお立ち寄り下さい

アテマルテ パーロス街 ニー三番地
レロイジョアリア タカミ

柴田時計店

電話一五四番

Avviso de Cine Pastos

九月二十六日(日)九時半 二十七日(月)八時 監督 出目昌伸
松竹 沖田総司 草刈正雄 荒木一郎
総天 眞野響子 河原崎俊郎 米倉斉加年
然色 池田志乃 高橋幸治

十月一日(金)八時 二日(土)九時半
東映 博奕打ち外伝 鶴田浩二 高倉健
然色 若山富三郎 松方弘樹
菅原文太 浜木綿子
菅原文太 松平純子

十月三日(日)九時半 四日(月)八時
東映 燃る狼男 千景真一 カニ子
然色 奈美悦子 渡辺やよい 監督 山口和彦
近藤 宏 待田京介

十月八日(金)八時 九日(土)九時半
東宝 忍ぶ心 栗原小卷 眞野響子
然色 加藤 剛 小沢栄太郎
渡辺 美津子 河原崎俊郎

十月十日(日)九時半 十一日(月)八時
東宝 大阪城物語 三船敏郎 久我美子 市川団子
然色 香川京子 山田五十鈴 志村喬
星由里子 夏木陽介 若井キ太郎

十月十五日(金)八時 十六日(土)九時半
東宝 忍ぶ心 俳優前篇と同じ
然色 春の歌 俳優前篇と同じ

空前のオールスター大花を歌うオノ一年一作の傑作映画の超大作ノ

私は今、あつて行きます。宝生寺の誓い。京都の激情。あつたあつたの表し。愛を七色の翅に織り込んでノ

天下無双の娯楽巨篇ノ煙と砂塵と血の雨ノ剣と恋に命を賭ける荒武者道ノ